

事例3 定置網の網起こし作業中にローラとロープの間に手が挟まれた事故

箱網の状況を見ようと目を離し、キャプスタンローラとロープに手を挟まれて負傷

事故の概要：本船（総トン数16トン）は、船長および甲板員Aほか甲板員4人が乗り組み、定置網の網起こし作業中、平成29年11月4日04時00分ごろ、甲板員Aが右手をロープとキャプスタンのローラとの間に挟まれて骨折の重傷を負った。

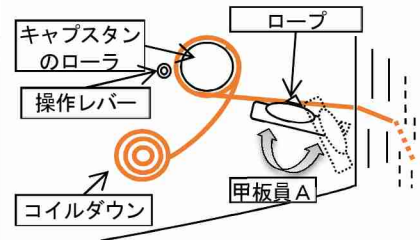
本船は、定置網の箱網を揚げるため、箱網入口付近で機関を中立運転した。



ローラ
操作レバー

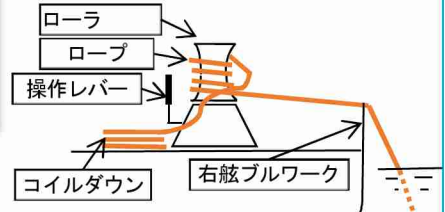
全員が配置にそれぞれつき、甲板員Aは後部甲板右舷側にあるキャプスタンの担当で、網起こし作業（漁獲部の箱網を船上に引き上げる作業）を始めた。

上から見た図



甲板員Aは、キャプスタンの右舷船尾側に立ち、箱網の引き揚げようの手綱を船首方に身体を向け、箱網を破かないように右舷側に寄って海中を見たり、キャプスタン側に寄り、端末側のロープのコイルダウンを繰り返していた。

船尾から見た図



ロープ持替え時の状況



箱網確認時の状況

甲板員Aは、左手から垂れ下がった端末側のロープが、箱網側のロープと絡まって逆巻き状態になりそうな感じがした。

甲板員Aは、端末側のロープを右手で箱網側のロープの上から外そうと、ロープを右手に持ちかえようとしたところ、右手のゴム手袋の中指が箱網側のロープとローラの間に挟まれたと思ったとき、続いて右手を挟まれた。

ロープを持ち替えようとしたとき、箱網の状況を見ようとし手元から目を離した。

原因：本事故は、夜間、甲板員Aが、ロープをローラに巻いて巻き揚げている際、左手で持っていた端末側のロープが箱網側のロープの上に垂れ下がり、絡まって逆巻き状態になりそうな感じがしたので、端末側のロープを右手で箱網側のロープの上から外そうとしたとき、箱網が上がってくる状況を見ていたため、箱網側のロープとローラとの間に右手を挟まれたことにより発生したものと考えられる。

再発防止に向けて（事故防止策）

- 動いているローラにロープを手で巻いて巻き揚げている際は、ロープを持っている手元をよく見ること。
- ローラでロープを巻き上げる際は、ローラに巻かれる側のロープとローラから出ていくロープとが交差しないようにして行うこと。

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(2017年8月31日公表)
https://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2018/MA2018-5-1_2017sd0093.pdf